

各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <p>国語科では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目指している。</p> <p>具体的には、日常生活に必要な国語について、「その特質を理解し、適切に使うこと」、「人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うこと」、そして「言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと」が目標とされている。</p>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」は、目標を達成している学年が多いが、高学年では課題もあり、「話すこと・聞くこと」と合わせ読み取ったことや目的や意図に応じて伝え合うことに重点を置き、それを系統的に指導することに課題がある。 ・「書くこと」についても目標を達成している学年が多いが、「知識・技能」の中でも漢字・語彙・表現の技法などは個人差があり、「書くこと」の学習の中でも意図的に指導していく必要性がある。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○教師の話や友達の発言を静かに聞くことはできる。</p> <p>●教師や友達など、相手が何を言おうとしているか捉える力が低く、最後まで話を聞こうとする集中力が足りない。</p>	<p>話を最後まで集中して聞けるように指導する必要がある。</p> <p>話の中で大切なことは何かを捉えたり、話を聞いて自分で考えたりする力を伸ばす指導が必要である。</p>	<p>相手の目を見て、しっかりと最後まで話を聞くことの大切さと実践を常に意識できるように指導する。</p> <p>話の中心は何かを尋ねる機会を授業の中で設ける。</p>
2年	<p>○「言語についての知識・理解・技能」は、おおむね目標を達成している。</p> <p>●文章を書く力を伸ばす必要がある。</p>	<p>助詞や促音を正しく使ったり自分の考えが明確になるように文を「書く」力を育てたりする必要がある。</p>	<p>文の視写・日記指導等、文を書く機会を増やす。それと共に読書量を増やし、文章に触れる機会を増やす。</p>
3年	<p>○「読むこと」や「書くこと」に関しては、おおむね目標を達成しており、「話すこと・聞くこと」もテストでは目標を達成しているが、対話など実践面でその力をいかしていく必要はある。</p> <p>●「知識・技能」の中でも当該学年までの漢字を正しく使い、書く能力についての個人差が大きくなっていることに課題がある。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」を国語科の授業の中だけでなく、全授業の中で更に意図的に指導していく必要がある。</p> <p>3学年に配当されている漢字を正しく書くこと、また、文や文章の中で漢字を正しく使うことができるように指導する必要がある。</p>	<p>どの授業でも、「話の中心が明確になるよう理由や事例を挙げながら話す」という学年の目標を意識して話し、聞くよう指導する。</p> <p>授業の初めに漢字テストを実施し、間違えた漢字は繰り返し練習するなど反復練習をさせる。また、家庭学習でも漢字の練習をさせる。</p> <p>日記を毎週の課題として、文の中で漢字を使うことを練習する。</p>

4年	<p>○各単元において、「読む」能力は、目標をおおむね達成している。</p> <p>●「話す・聞く」の力を伸ばす必要がある。</p>	<p>全ての単元で「話す・聞く」の力を向上させる意識をもち、意図的・計画的に指導していく必要がある。</p>	<p>文章の構成を意識したワークシートを作成・活用して、自分の考えをまとめたり、話したりする力を身に付けさせる。各単元で必ず漢字学習や意味調べなどを行うよう、指導計画の改善を図る。</p>
5年	<p>○単元ごとのワークテストの結果から「読む」能力に関しては、目標値を概ね達成している。</p> <p>●単元ごとのワークテストの結果から「漢字」を書くことが課題である。</p>	<p>文や文章の中で習った漢字を正しく使えるように指導している。</p>	<p>朝の学習時間や家庭学習で、漢字テストや漢字練習の時間を設ける。間違えた漢字や新出漢字を反復練習させる。</p>
6年	<p>○「話す・聞く」能力は、力の向上が見られる。</p> <p>●「読む」「書く」能力を伸ばす必要がある。</p>	<p>友達の考えを共有できる場面を設定したり、筆者の伝えたいことが何か段落相互の関係を考えながら読みだりする必要がある。</p>	<p>話し合い活動を通して、様々な考え方に触れ、読み方の幅を広げたり自分の考え方を広げたりする。</p> <p>児童一人一人が文章の内容を自分なりに解釈し表現する力を養うような指導をしていく。</p>

(2) 社会科

社会科の重点

今年度も問題解決的な学習をより一層充実させていく。そのために3つのことを重点に置く。

1つは、学習問題に対する予想を考える段階で、「何を」調べるのか、「何で」調べるのかを大切にしていきたい。2つは、児童相互の考えを交流を深められるよう、ICT機器を活用して共有し易くする。一人一台のタブレットを十分活用していく。3つは、社会へ関わろうとする態度を養っていく。そのために、社会的事象を追求したり、解決する際に選択・判断する学習場面を設定していく。その中で、社会的事象を自分事として捉えられるようにしていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<p>○中野区の様子について、主体的に問題を解決しようとする態度が身に付いてきている。</p> <p>●ワークテストから、地図帳や資料から必要な情報を調べる力に課題のある児童が若干名いる。</p>	<p>資料から必要な情報を読み取り、また、読み取った情報をまとめる力が付くように指導する必要がある。</p>	<p>資料を読み取る際には、まず、クラス全体で読み、資料の読み取り方を指導する。その後、児童の実態に合わせながら段階的に一人ひとりの児童が個別に読み取る時間を増やしていく。また、資料で調べたことをまとめる時間を単元の中に意図的に計画することで、まとめる力を身に付けさせるようにする。</p>
4年	<p>○学習問題を立てて、調べたことをもとにして考え、問題を解決するという学習の進め方が確実にできるようになってきた。</p> <p>●資料を活用した表現の仕方に工夫が必要。</p>	<p>社会的な事象の捉え方や、そこからの思考の仕方を深め、よりよい意見に気付いたり、自分の思考・判断をより高められるようにする。様々な表現の工夫を知る。社会的事象の意味を考えられるようにする。</p>	<p>資料を読み取る視点を示し、個人の考えを確実にもたせてから、少人数での話し合い活動を行うようにしていく。その中で、「思考力・判断力・表現力」の力を身に付けさせていく。</p>
5年	<p>○ワークテストの結果から「知識・技能」に関しては、平均が標準値以上だが得点の個人差が大きい。</p> <p>●「思考・判断力」に関しては、標準値を下回っていて、特に記述式の問題の正答率が低い。</p>	<p>資料から社会的事象を読み取れるが、その背景まで読み取ることが課題。</p> <p>資料同士を関連させて考えさせることが課題。</p>	<p>読み取った社会的事象に対して、理解を深める補助発問をし、その背景まで読み取らせる。</p> <p>授業のまとめでキーワードを提示し、一人ひとり自分の言葉でまとめを考えさせる。</p> <p>資料の提示する順番やどのように関連づけさせるかなど工夫する。</p>
6年	<p>○「知識・技能」については、標準値を上回ることができている。</p> <p>●社会的事象の意味を考ことを苦手とする児童が多い。</p>	<p>資料から社会的事象を読み取ることができる一方で、事象の意味を考えることがあまりできない。</p> <p>政治、歴史分野の学習が自分事として捉えにくい。</p>	<p>調べる段階での読み取りの際に、補助発問を適宜行うことを通して全体で社会的事象の意味を考えられるようにする。</p> <p>身近な生活とのつながりを提示することで、社会的事象がわたしたちの生活を結びついていることを感じさせていく。</p>

(3) 算数科

<p>算数科の重点</p> <p>算数科では、児童が数量や図形に関する基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けること、また、それらを用いて日常の事象について自ら考え、問題を解決し、相手に分かりやすく伝えることができるようになることを重点とする。</p> <p>そのため、少人数・習熟度別学習集団による個に応じた指導を充実するとともに、指導と評価の一体化を目指した授業力の向上を図り、問題解決的な学習を重視した授業づくりをし、展開していくようにする。</p>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 算数」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「技能」の校内平均正答率は、どの学年においても目標値と全国平均正答率より高い。しかし、区平均正答率より低い学年もあるので、特に「小数の計算」「長さの読み取り」「時間」などの理解が低い学習内容については、今後も継続して授業改善を図っていく。 ○「数学的な考え」の校内平均正答率は、どの学年においても目標値と区・全国平均正答率より上回っている。今後も考えを説明する活動や児童に合った課題設定を継続し、強化に取り組んでいく。 ○D層が苦手としている学習内容として、特に「長さ」「時ごとと時間」「重さ」「小数」などを個別課題として設定し、今後も学力向上を図っていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○繰り上がり、繰り下がりのない計算はできる。</p> <p>●文章を読み、式を活用して問題に取り組む力が弱い。習熟度は個人差が大きい。</p>	<p>課題に対して、どのように解決していくか思考し、表現する力を指導していく必要がある。</p> <p>習熟度の個人差を踏まえて指導する必要がある。</p>	<p>問題提示の仕方を工夫する。</p> <p>どのように問題を解決していくか児童と一緒に解決していくような授業をしている。また、自分の考えたことを表現できる場面を増やし、指導していく。</p> <p>サマースクールや少人数指導を活用し、個別指導を充実させることで、理解の定着を促す。</p>
2年	<p>○長さやかさ、計算の技能については、おおむね目標に達している。</p> <p>●図形や大きな数のしくみについての理解が不十分である。また、計算の技能については個人差が大きい。</p>	<p>図形の構成要素や大きな数の構成等「数学的な考え方」や「数学的思考」を伸ばす必要がある。</p> <p>計算の技能については、個人差を解消する必要がある。</p>	<p>図形や大きな数等、普段の生活と結びつけながら継続的に指導する。具体物や具体的な操作を通して学ぶ機会を増やす。</p> <p>サマースクールや少人数指導を活用し、個別指導を充実させることで、理解の定着を促す。</p>
3年	<p>○「数と計算」についてはおおむね目標を達成しているが、その思考力・判断力・表現力になると苦手を感じる児童もいる。</p> <p>●「長さ」においては、単位変換やものさしに示された長さの読み取りが不十分である。また、「図形」の</p>	<p>全単元において、その思考力・判断力・表現力をつけられるように指導する。</p> <p>量感や単位換算、図形等「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」を伸ばす</p>	<p>全単元において、文章問題など苦手とする児童の多い分野を単元の終末には重点的に指導を重ねるようにする。また、サマースクールや朝学習、少人数指導を活用し、児童が苦手としている学習内容を個別課題として設定して指導する。</p> <p>普段の生活と結びつけながら継続的に指導する。具体物や具体的な操作を</p>

	理解も不十分なところがある。	必要がある。	通して学ぶ、「数学的活動」の機会を増やす。
4年	○数の概念や計算の技能については、おおむね理解している。 ●活用する力が不十分である。特に「時こくと時間」「重さ」においては、時間を求めたり、重さを推察したりする力に課題がある。また、計算の技能については個人差が大きい。	問題解決型の授業を展開するとともに、問題解決の過程を説明できるようにする必要がある。全体として、自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばす必要がある。 児童に合った課題設定をする必要がある。	問題解決の過程を説明し合う場面を設定する。 児童が自分の考えをノート等に記述するよう指導する。 サマースクールや朝学習、少人数指導を活用し、児童が苦手としている学習内容を個別課題として設定して指導する。
5年	○数の概念や計算の技能については、おおむね理解していて、表現する力がある。 ●計算の技能については個人差が大きい。また、「小数のかけ算・わり算」「直方体」「概数」においては、計算したり数を求めたりする力が不十分である。	計算の技能については、個人差を解消する必要がある。 全体として、自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばす必要がある。 児童に合った課題設定をする必要がある。	サマースクールや朝学習、少人数指導を活用し、個別指導を充実させることで、理解の定着を促す。また、児童が苦手としている学習内容を個別課題として設定して指導する。
6年	○数の概念や計算の技能については、おおむね理解している。 ●自分の考えに自信を持つことができない児童が多い。計算の技能については個人差が大きい。また、「分数と小数」「小数の計算」においては、数を求めたり、かけ算で計算したりする力が不十分である。	具体物や具体的な操作を通して学ぶ機会を増やし、算数に対する抵抗を減らす。計算の技能については、個人差を解消する必要がある。 児童に合った課題設定をする必要がある。	サマースクールや朝学習、少人数指導を活用し、個別指導を充実させることで、理解の定着を促し、発言する機会をたくさん設定し、自信をもって発言できるよう指導する。また、児童が苦手としている学習内容を個別課題として設定して指導する。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・学級担任と少人数指導担当が習熟度別クラスにおける児童の実態、学習内容、指導法について細やかな打ち合わせをする。
- ・授業中や放課後、業間においてとくに支援が必要な児童に対し任期付短時間勤務教員が細やかな指導にあたる。
- ・少人数指導担当と任期付短時間勤務教員が児童の実態に応じた教材準備、指導法の研究にあたる。

(4) 理科

理科の重点
 自然の事物・現象に自ら働きかけ、そこから問題を見だし、主体的に問題を解決する活動が必要とされる。また、理科における資質・能力を育てる学びの過程として「①自然の事物・現象に対する気付き→②問題の設定→③予想の設定→④実験計画の立案→⑤観察・実験の実施→⑥結果の処理→⑦考察の展開→⑧結論の導出」といった過程が考えられる。これらの過程の中で、問題解決の力に関わる資質・能力を育てることが重要である。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<p>○主体的に学習に取り組んでいる児童が多い。</p> <p>●単元毎のワークテストの結果から「知識・技能」の定着が十分でない児童が一部いる。</p>	<p>問題の設定の場面で、児童が理科における問題の意味を正しく理解させる必要がある。また、自然の事物・現象に対する気付きをより具体的に捉えられるように指導する必要がある。</p>	<p>自然の事物・現象に触れる時間を十分に確保し、気付きや疑問などを十分に引き出す時間を確保するとともに、具体的な表現や、事物の名称等を確認する。また、理科における問題がどのようなものなのか具体的な問題文を繰り返し提示していくを通して、実感させるようにする。また、問題設定の方法を具体例を出しながら指導していく。</p>
4年	<p>○自然事象に興味関心をもって学習に臨む児童が多い。</p> <p>●予想を立てる際に、実生活との関わりを基にしたり、既習内容や他の事象と比較したりする視点をもって考えられる児童が少ない。</p>	<p>予想を立てることについての指導が十分でなく、予想を立てるといふ学習活動について理解させることができていない。</p>	<p>全ての単元で予想を立てる学習を必ず設定する。それに伴い、自然事象にふれる機会を必ずもつようにして、根拠のある予想を立てることができるようになる。また、意図的・計画的に関連する既習内容を振り返りながら学習を進めることで既習内容と関連付けて予想を考えられるようにする。</p>
5年	<p>○理科学事象に、興味・関心を持って学習活動を行っている児童が多い。</p> <p>●実験結果を踏まえた考察を書くことが難しい。</p>	<p>考察にどんなことを書けばいいかわからない児童が多いので、どのようなことを書けばいいか指導する必要がある。</p>	<p>具体例を示すことで、表現する内容や考えを視覚的に分かりやすくする。結果を踏まえて考えたことを、ICTを活用して共有する。</p>
6年	<p>○自然の事物・現象に対して実験計画を立て、主体的に学習することができる。</p> <p>●「考察の展開」に課題がある。</p>	<p>実験結果に対する考察を書くことを苦手とする児童が多い。</p> <p>予想に対する根拠が不明瞭になることが多い。</p>	<p>結果をグループや全体で共有する時間を確保する。「何を」考えればよいか、「何と何を」比較すれば良いかなど、考察を書く視点を示すようにする。</p>

(5) 生活科

生活科の重点

生活科の学習では、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養うこと」が求められている。

鷺宮小学校では、特に「児童が自然や生き物と触れ合い、季節を感じる活動や体験の充実」を図ることで、充実感、達成感、自己有用感、一体感などを、可能な限り感じ取ることができるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○日々のアサガオの世話、季節の自然観察など、身近な自然と自分との関係に興味・関心をもつことができる。</p> <p>○観察カードにアサガオの成長を記録することができた。</p> <p>○その季節に見られる自然のものをカードに記録することができた。</p> <p>●自然や生命と触れ合ったり、日本の年中行事に親しんだりした経験に差がある。</p> <p>●新型コロナの感染防止のため、人と触れ合う活動内容が制限された。</p>	<p>観察の際、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚でじっくりと感じ、そこから気付いたことが反映できるように、観察のポイント（視点）や書きかたの例を具体的に示す。</p> <p>それぞれの季節に見られる自然のものや行事、変化について意図的・計画的に気づかせたり、知らせたりするようにする。</p> <p>ICT機器を活用する授業内容を工夫する必要がある。</p>	<p>身近な植物の観察を続け、動植物と触れ合う機会を可能な限り取り入れる。</p> <p>身近な自然と触れ合う機会を意図的に設定し、自然の面白さや不思議さに気付くことができるように新型コロナの感染防止を念頭におきながら授業を工夫する。</p> <p>季節の行事や自然の変化に気づけるよう、それぞれの季節をカードにまとめる活動を可能な限り取り入れる。</p> <p>ICT機器を活用した活動を行う。</p>
	2年	<p>○植物を育てたり観察したりする学習に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>●新型コロナの感染防止のため、人と触れ合う活動が行えない。</p>	<p>可能なものについては直接的な体験活動を、それが難しいものについては直接体験に代わる間接体験の機会を設定する必要がある。</p> <p>また、ICT機器を活用する授業展開を工夫する。</p>

(6) 音楽科

音楽科の重点

表現及び鑑賞の活動を通して、児童が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、互いに尊重し、学び合い、協働して学習に取り組めるようにする。

児童一人一人が音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習活動を工夫し、発達の段階に応じた「知識及び技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を実現するために以下を重点項目とする。

- ・誰もが表現することに自信をもって活動し、自分や友達の個の表現を尊重できる。
- ・視覚的に見やすく、分かりやすい教材の工夫をする。
- ・毎時間の学習のねらいを明確にし、何が分かり、できるようになったのか振り返りをする。
- ・題材全体の見通しをもてるようにする。(ワークシート、目標の提示等)

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○歌唱や音楽を聴いて体を動かす活動、リズム打ちを楽しんで活動している。</p> <p>●全員で声を合わせて歌うことがまだ難しく、伴奏や周りの声とはずれて合わないことがある。</p> <p>●器楽の学習については、初期の段階で大きな差はない。</p>	<p>大きな声で歌うという意識が強く、聴きながら歌うことが難しく、自分の声を優先にして歌う傾向がある。</p> <p>鍵盤ハーモニカの指使いや楽器演奏について、苦手意識を持つ児童が増えてくると予測する。</p>	<p>・CDやピアノ伴奏なしで歌う等様々な歌い方によって自分の声や周りの音をよく聴きながら合わせて歌えるようにする。教材の精選をしてどんな歌声が適切か聴いて理解させる。</p> <p>・基本的な演奏方法を見たり聴かせたり、遊びで使ったりしながら定着させる。</p>
2年	<p>○歌唱では、特に体を動かして歌う活動に意欲的で明るく元気に歌っている。</p> <p>●器楽の学習進度に個人差があり、苦手意識を持っている児童がいる。</p>	<p>全体で合わせるのが難しい児童がいるため、練習時間に個人指導・支援の時間を確保する必要がある。</p>	<p>・鍵盤ハーモニカの拡大版を掲示し、それを用いながら指使いや階名唱を丁寧に行う。</p> <p>・個人練習の時間を教師だけではなく、課題を達成できた児童が教え、学び合う活動をえるようにする。</p>
3年	<p>○基本的にはどの学習にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>●リコーダーの学習については指使いや息づかいに苦手意識を感じている児童が出ている。</p>	<p>リコーダーに苦手意識のある児童は、リコーダーの指使いを覚えるための繰り返しの練習に飽きたり、練習に意欲がわかなかったりすることがある。</p>	<p>・児童が演奏したいと思えるような比較的易しく、短めの教材を多めに用意し、達成感をもたせる。</p> <p>・個人やグループで発表する時間を増やし、演奏を聴き合ったり、学び合ったりする。</p>

4年	<p>○響きのある声を意識して歌うことができている。</p> <p>●リコーダーの学習には、個人差がある。運指を覚えたり、低音を響かせるのに苦手意識をもっている児童がいる。</p>	<p>運指を覚えていなかったり、楽譜を見て少しずつ段階的に練習するというのが難しかったり、音によって息づかいを変えるのが難しかったりする児童がいるため、個人指導・支援を必要とする。</p>	<p>・リコーダー運指表をヘルプカードとしていつでも使えるように用意したり、教師→全体や教師→個人というリコーダーでのやりとりを通したりして、自分の音をよく聴けるように工夫する。また、楽譜についても具体的に説明できるように拡大楽譜を使う。</p>
5年	<p>○響きのある声で歌い、全体で合わせることを楽しみながら歌唱の活動をしている。</p> <p>●どのような思いや意図をもち、音楽表現に生かしたらよいかという意識が低く、ただ歌うという活動になりがちである。</p>	<p>音楽を聴いたり、歌ったりする過程で、楽曲のもつよさや曲想、変化と構造などに着目させ、考えたり、思いや意図をもったりする必要がある。</p>	<p>・音楽を形作っている要素やキーワードを理解し、ワークシートやipadを用いて楽曲についての理解を図る。その際、曲全体を通して最終的にどのように歌いたいかどのように聴きたいかを定め、学習の見通しをもって取り組めるように工夫する。</p> <p>また、グループ活動を取り入れて、自分の考えや思いを共有できる場を増やすようにする。</p>
6年	<p>○合唱、器楽を中心に音楽的活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>●響きのある声で歌っているが、歌唱技能やボリュームについてはまだまだ伸びると考える。</p> <p>●器楽では、楽譜を読み取ることが難しい児童が多く、個人練習の効率が悪いことがある。</p>	<p>発声練習を意欲的に取り組ませる必要がある。また、恥ずかしさや自信のなさを払拭させる。</p> <p>楽譜作りを工夫して、読みやすい楽譜を作成するようにする。</p>	<p>・声の出し方、腹式呼吸による息の使い方、体の使い方を楽しく継続的に身につけられるように短い発声練習を工夫して、常時活動に取り入れる。また、短いフレーズを個人で発表する時間をとり、この表現を尊重して全体で受け止められるようにする。</p> <p>・カタカナの記譜や楽譜をいくつかに分け、それぞれ児童がつまづきそうな部分を予測し、アドバイスの記入をするなどの工夫をする。グループ活動の時間を有効に使い、役割を設定し、教え合う、学び合える効率のよい時間にする。</p>

(7) 図画工作科

<p>図画工作科の重点</p> <p>図画工作科の重点</p> <p>児童が感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができるように、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい発想や感じ方ができるようにさせる。 ・形や色や材料から構想することができるようにさせる。 ・形や色や材料を生かし、表しかたを考えて表すことができるようにさせる。 ・作品などのよさを感じたり、表現したりすることができるようにさせる。
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>●今までの生活経験からくる個人差が大きい。</p>	<p>工夫して学習できる児童と、そうでない児童への個人差への対応が課題である。</p>	<p>個別に表現への意図を聞き取ってさらに工夫することを促したり、学習課題がはやく終わった児童のための個別の学習課題を準備したりしておく。</p>
2年	<p>○楽しんで活動に取り組む態度がみられる。</p> <p>●今までの生活経験からくる個人差が大きい。落ち着いて活動できない児童がいる。</p>	<p>活動内容を把握することができなかつたり、発想がわからずに活動には入れない児童への対応が課題である。</p>	<p>個別に対応してその子のつまづきに対して支援したり、話を聞きとって発想を促したりしていく。スキルアップ的な題材にも取り組み、自信をもたせていく。</p>
3年	<p>○楽しく活動に取り組み、自分の考えをもてる児童が多い。</p> <p>●一斉指導では行き渡らず、個別指導が多いことが課題である。</p>	<p>学習内容のつかませ方が課題である。</p>	<p>スモールステップで学習をすすめていく。</p> <p>集中して学習をすすめるために声かけをしていく。</p>
4年	<p>○落ち着いて学習に取り組む、粘り強く活動できる雰囲気である。</p> <p>●作品の相互鑑賞のとき、発表する児童が少なくなってきた。</p>	<p>自分や友達の作品のよさにも目を向けさせることが課題である。</p>	<p>・めあてに対しての振り返りを繰り返すことで、意識付けを図る。</p> <p>・友達の作品の良さを見つける時間的な保障をする。</p>
5年	<p>○素直にアドバイスをうけることができ、意欲的に活動できる児童が多い。</p> <p>●手順や構想を確かめながらでない活動が不安である児童が多い。</p>	<p>苦手意識や不安感を感じずに、自信をもって活動できるようにすることが課題である。</p>	<p>活動のなかで技術的に抑えておきたいところと、自由に活動させたいところが明確に児童に伝わるよう、全体指導を工夫する。</p> <p>児童が自信を持てるよう、試しながら活動できる場をふやす。</p>
6年	<p>○意欲的に活動に取り組む、自分らしさを発揮できる児童が多い。</p> <p>●発想がわからない児童や、発想が広がらない児童がいる。</p>	<p>児童の発想をどう引き出すかが課題である。</p>	<p>「～をつくりましょう」ではなく、形遊びから発想させたり、色々な資料を見ることができるようになりなど、発想の手がかりとして使えるものを多くする。</p>

(8) 家庭科

家庭科の重点

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活をよりよくしようとする力を身につけることが求められる。以下の3つの点の技能や態度を育むことが大切である。①日常生活に必要な基礎的な理解を図る。②身近な生活の課題を解決する。③生活をよりよくしようとする。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<p>○日頃から家庭で行っている児童もおり、興味をもっている児童が多い。</p> <p>●裁縫の技能面に関して差がある。</p>	<p>必要な技能を確認して理解を確実にする必要がある。</p>	<p>児童の生活に関わる学習をすることを理解させるとともに、映像資料などのICT教材を活用し、知識を確実に理解させる。</p> <p>早く終わった児童をミニ先生とし、学級全体の活動が遅れないようにしたり、児童用iPadを活用し、映像で確認できるようにしたりする。</p>
6年	<p>○日常生活や家庭生活、裁縫などに高い関心をもちながら授業に取り組むことができている。</p> <p>●家庭環境により知識や理解、技能に偏りがある。</p>	<p>学習した内容を自身の生活に活かす指導をする必要がある。</p> <p>手縫いやミシンの使い方などの技能を繰り返し行い、技能をより確実なものにしていく必要がある。</p> <p>現段階ではコロナの影響により調理実習ができないため、調理に関する技能を知識として身に付け家庭で実践できるようにしていく必要がある。</p>	<p>実生活で実践する課題を提示し、学習した内容が活かせる活動を計画的に行う。</p> <p>計画的に裁縫の時間を確保し、児童の活動時間を増やす。また、個人に対して教えることのできる場や映像資料などを見れる機会を増やし、練習できるようにする。</p> <p>映像教材等を活用し、具体的な調理場面を想起させ、知識を身に付けさせる。また、技能については、家庭で取り組めるようにワークシートなどを用意し、技能の向上にも努めていく。</p>

(9) 体育科

体育科の重点

体育や保健の味方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○安全に気を付けて、すすんで運動しようとする態度は、身に付いている。</p> <p>●筋力・持久力・敏捷性・走力をつける必要がある。</p>	<p>・筋力・持久力・敏捷性・走力を高める運動遊びや体作り運動、ゲーム等を取り入れていく。体幹を鍛え体力をつけていく必要がある。</p>	<p>筋力・持久力・敏捷性・走力を高める運動遊びや体作り運動を意識した動きを取り入れる。</p> <p>ゲームや、ゲームにつながる運動遊びを通して、運動することの楽しさを味わわせる授業をしていく。</p>
2年	<p>○筋持久力、全身持久力については、おおむね目標に達している。</p> <p>●筋力・筋パワー・敏捷性が下回っている。</p>	<p>筋パワー（筋力×スピード）を高めるために、垂直とび・ケンケン足とびなどの運動を連続して、できるだけ速く行う等、敏捷に運動する必要がある。</p> <p>投力を高めるために、ボール等を投げる運動の機会を設ける必要がある。</p>	<p>準備・補助運動等で、素早く反応する運動遊びや速く切り換えて行うサイドステップやケンケン足とび等の動作を取り入れる。</p> <p>ボールを取ったり投げたりする機会を設け、基本動作を身に付けさせる。</p>
3年	<p>○運動にすすんで取り組み、きまりを守って仲よく運動している。</p> <p>●柔軟性や持久力に課題がある児童が多い。</p>	<p>柔軟性や持久力を高める運動を取り入れて、体を動かす心地よさや一定のリズムを続けて運動する心地よさを感じさせるとともに、基本的な動きを身に付けさせる必要がある。</p>	<p>授業の初めに準備運動の中で体をほぐす体操を取り入れて柔軟性を高めていく。また、準備運動や体づくり運動の中で持久走やインターバルのある運動をすることで持久力を高めて行く。</p>
4年	<p>○全国平均と比較して、上体起こし、長座体前屈は上回っている。女子は、筋力、柔軟性が上回っている。</p> <p>●男女ともに走力、投力が下回っている。</p>	<p>運動の特性を理解し、技能を習得したいという必要感がもてるよう学習計画を立て、すすんで運動をする児童を育成する必要がある。</p>	<p>準備運動や体づくり運動を通して、巧みな動きをさせたり、運動の特性を味わいながら友達同士で話し合うことができる授業をしたりする。</p>

5 年	<p>○筋力や、柔軟性は目標値を上回っている。</p> <p>●男女ともに持久力, 筋力が下回っている。</p>
6 年	<p>○各種の運動に積極的に取り組むだけでなく、健康や安全の大切さについて考える態度が身に付いている。</p> <p>●走力や筋力に課題がある。</p>

<p>継続的・定期的に運動できるような学習計画を立て、すすんで運動をする児童を育成する必要がある。</p>
<p>技能を習得させようとせず、運動の特性を理解させ、児童一人一人が学習課題を見いだせるような学習計画を立てていく必要がある。</p>

<p>準備運動や体づくり運動をの中で、持久力を高めるインターバルのある運動や筋力を高める運動を取り入れて、持久力や筋力を高めて行く。</p>
<p>各運動領域に合った主運動につながる運動を考えたり、運動の特性を味わいながら友達同士で話し合いながら課題解決できる授業をしたりする。</p>

(10) 外国語活動・外国語科

<p>外国語活動・外国語科の重点</p> <p>【外国語活動】</p> <p>外国語による「聞くこと」「話すこと」の言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深めたり、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだりして、コミュニケーションを図ろうとする素地を養うことが重要である。</p> <p>【外国語】</p> <p>外国語による「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動を通して、外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造などについて理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けることが求められる。つまり、コミュニケーションを図る基礎を育むことが重要となる。</p>
--

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<p>○英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさを理解している。</p> <p>●日本語ではしない発音や聞き馴染みのない英単語などについて、聞き取ることや発音することに苦手意識をもつ児童がいる。</p>	<p>ALTの発音を可能な限り多い回数、また、様々な聞き方で児童に聞かせる指導が少ない。また、ALTが英単語を発音する速さが一定であることが多い。</p>	<p>英単語を発音して提示する際や、ALTのあとに繰り返して発音させる際に、児童の反応等を確認し、発音する速さをゆっくりにしたり、母音や子音に分けて発音したりするなどして、児童が聞き取りやすい指導を行う。</p>
4年	<p>○指導者や友達と英語を使つての楽しくコミュニケーションを図っている。</p> <p>●外国の文化に興味をもつことに対する意欲が少ない。</p>	<p>児童が外国の文化や英語による表現に触れたり、それを知ったりする際に、日本の文化や日本語と比較したり興味を広げたりする指導が少ない。</p>	<p>デジタル教材を活用して、外国の文化や英語による表現と、日本の文化や日本語を比較したり、そのことについての興味を広げたりする指導を意図的計画的に実践し、多様性を受け止める素地を育てる。</p>
5年	<p>○英語で会話できる喜びを感じながら、指導者や友達とのコミュニケーションをとっている。</p> <p>●英語の聞き取りや発音に自信がなく、話すことに抵抗がある児童がいる。</p>	<p>どのように発音すれば良いか戸惑いがあったり、英語の内容を理解できず自分の思いなどを素直に表現できないことがある。</p>	<p>ALTによる発音練習やICT機器を活用し、繰り返し英語に慣れさせいく。また、音声速度を変更したり、場面絵を活用して何度も聞かせることで内容を理解させたりするなどして丁寧に指導していく。</p>
6年	<p>○「聞くこと」の力と意欲は概ね身に付いている。</p> <p>●自分の思いや考えを伝える「話すこと」「書くこと」の能力について課題がある。</p>	<p>一時間の授業に学びの必然性をもたせ、児童一人一人が見通しをもちながら学習していく必要がある。</p>	<p>単元初めにこの単元で何を学ぶのか、どのような力を身に付けていきたいか児童一人一人が主体的に学習に取り組めるように教材研究をしていく。</p> <p>自分が伝えたい、言いたいという思いが児童の本音とつながるように授業を展開し、ALTも活用しながらその願いを実現させる。</p>

